



2026年3月期 第3四半期 決算補足説明資料

2026年2月13日

株式会社栄電子

東証スタンダード市場 証券コード7567



2026年3月期 第3四半期 業績概要



- ・ 主要顧客における生産部材の在庫消化や手配調整が一部進展。
- ・ 受注は引き続き回復傾向にあり、売上高は前年同期比6.5%増。
- ・ 販売費及び一般管理費は前年同期比5.8%増加したが、売上総利益が前年同期比6.4%増加し、営業利益は前年同期比12.2%増加。高付加価値商材の受注増が貢献。

科目	2025年3月期_3Q	2026年3月期_3Q	前年同期比	
			増減額	増減率(%)
売上高	4,889	5,205	+315	+6.5
営業利益	68	76	+8	+12.2
経常利益	89	96	+6	+7.2
四半期純利益*	46	76	+30	+66.6
1株当たり四半期純利益(円)	9.08	15.13	-	-
受注高	4,084	5,426	+1,342	+32.9

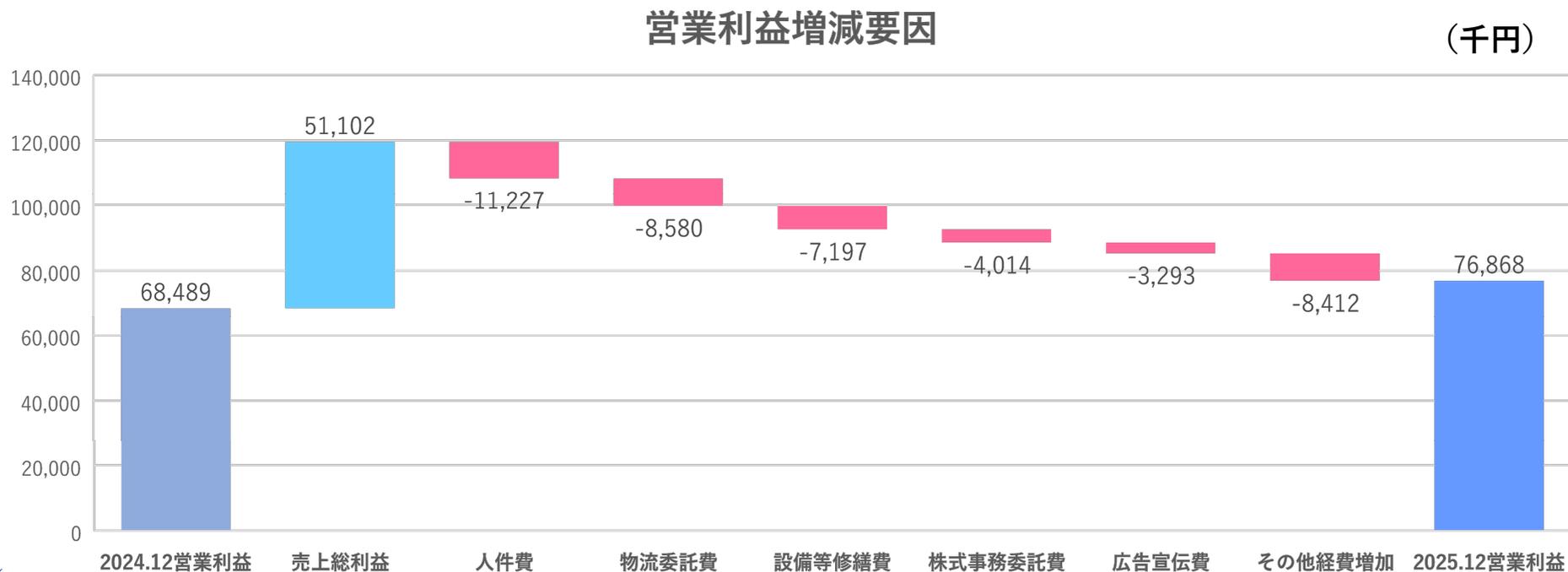
* 親会社株主に帰属する四半期純利益



営業利益 前年同期比 増減要因



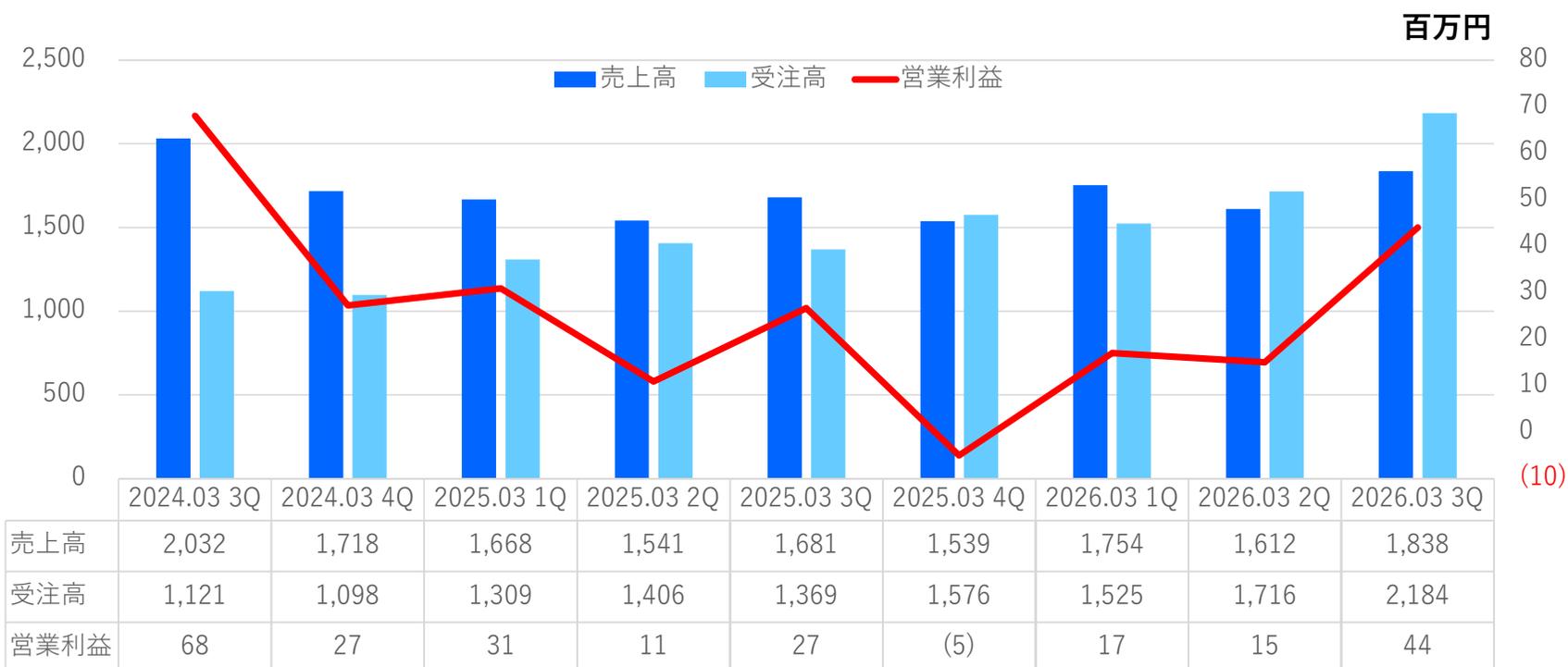
- ・ 売上総利益は6.4%増加。経費増を吸収し、営業利益は前年同期を上回った。
- ・ 販売費及び一般管理費は5.8%増加。うち人件費は、採用等により前年同期比約4.1%増加、一般管理費は、外部物流活用や設備等修繕費などにより前年同期比約8.5%増加。



四半期別 売上高・受注高、営業利益トレンド



- ・売上高は直近四半期及び前年同四半期を上回る。
- ・受注高は直近四半期及び前年同四半期を上回り、順調に回復傾向にある。
- ・営業利益は直近四半期及び前年同四半期を上回り、回復が見られる。



商品別 売上高・受注高推移



(百万円)

	2025年3月期		2026年3月期			前年同期比	
	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	(増減額)	(増減率%)
売上高	1,680	1,538	1,754	1,612	1,838	+157	+9.3
(商品別内訳)							
一般電子部品	1,005	932	1,043	990	1,142	+136	+13.6
電 源	359	288	359	274	322	-37	-10.3
電子デバイス	77	64	52	44	48	-28	-37.3
I O T 機 器	31	37	30	65	91	+60	+192.5
セ ン サ ー	15	15	22	17	19	+3	+20.2
そ の 他	191	199	245	220	214	+23	+12.1
受注高	1,368	1,575	1,525	1,716	2,184	+815	+6.0
(商品別内訳)							
一般電子部品	815	985	995	1,072	1,368	+552	+67.7
電 源	263	248	225	237	350	+86	+33.0
電子デバイス	40	28	19	45	52	+11	+28.4
I O T 機 器	26	64	81	97	93	+67	+259.7
セ ン サ ー	29	9	13	15	20	-8	-30.6
そ の 他	193	238	191	248	299	+106	+54.9



財政状態



百万円

科目	2025年3月期末	2026年3月期_3Q末	前期末比較	
			増減額	増減率(%)
流動資産	4,125	4,284	+158	+3.8
固定資産	2,566	2,918	+351	+13.7
負債合計	2,218	2,468	+250	+11.3
株主資本	4,069	4,095	+26	+0.6
純資産	4,473	4,734	+260	+5.8
総資産	6,692	7,202	+510	+7.6
自己資本比率(%)	66.9	65.7	—	—
1株当たり純資産 (円)	880.92	932.15	—	—
期(四半期)末株価	451	498	—	—
PBR	0.51	0.53	—	—

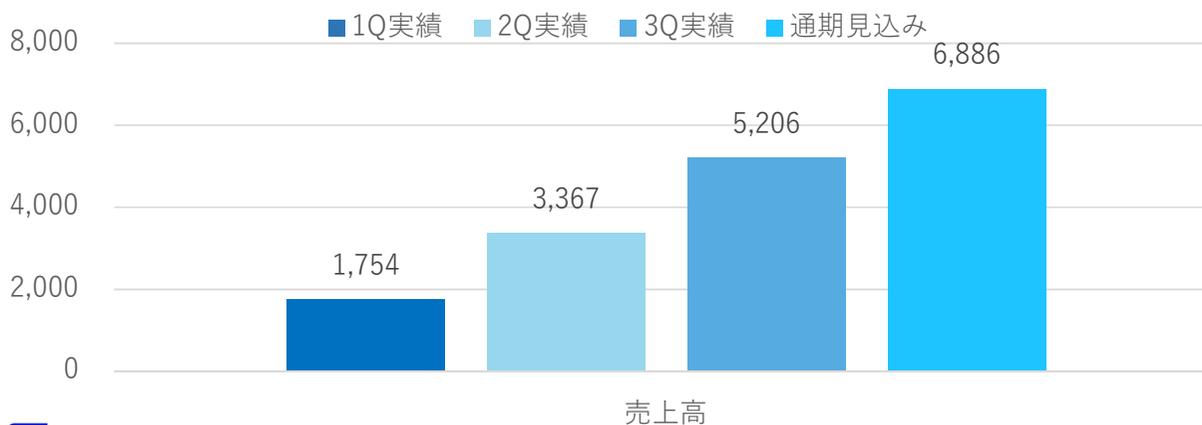
- ・ 流動資産
売上債権の増加170百万、
商品の増加160百万、現
預金の減少111百万
- ・ 固定資産
投資有価証券の増加
- ・ 流動負債
仕入債務の増加130百万、
賞与引当金の減少15百万、
未払法人税等の増加
12百万
- ・ 固定負債
繰延税金負債の増加

業績予想と実績



・2026年3月期通期業績予想、配当予想は、前回（11月13日）公表値から変更なし。

	科目	前回予想	今回予想	
通期連結業績予想 (百万円)	売上高	7,822	6,886	配当予想 1株あたり10円
	経常利益	167	93	
	当期純利益	111	73	
	1株当たり純利益	22円00銭	11円87銭	



・第3四半期の利益が通期業績予想値を上回っているが、第4四半期の支出計画等を総合的に勘案し、通期業績予想を据え置いた。



「ラーニングイノベーションアワード2025（ALL DIFFERENT主催）」の ラーニングビジョン部門で受賞

■ラーニングイノベーションアワードとは

ラーニングイノベーションアワードとは、累計20,000社450万人以上の組織開発・人材育成を支援するALL DIFFERENTが、人と組織の未来創り[®]において優れた取り組みを行う企業を表彰し、その取り組みを広く紹介することを目的としたイベントです。

当社は、ラーニングイノベーションアワード2025において、階層別研修による人材育成の取り組みが評価され、「LEARNING VISION賞」を受賞しました。

今後も当社は、ビジョンである「わくわくする挑戦を重ね、感謝と繁栄が循環する未来を創る」を掲げ、産業と社会の発展に貢献してまいります。





台湾現地法人の設立でアジア戦略を本格始動

当社は、アジア市場における事業拡大と顧客対応力のさらなる強化を目的として、台湾に100%出資の現地法人「台榮電子股份有限公司（仮称）」を設立することを決定しました。2025年4月に開設した台湾駐在員事務所での活動を通じて、現地市場の可能性とニーズを実感したことが、今回の判断につながっています。

新会社は、電子部品・電子機器の販売および輸出入を担う拠点として、2026年3月の設立を予定しています。現地での迅速な意思決定と柔軟な対応を可能にすることで、台湾をはじめとするアジア圏でのビジネス展開を加速させていきます。

なお、2026年3月期の業績への影響は軽微と見込んでおり、中長期的には当社のグローバル成長を支える重要な一歩と位置づけています。





計画期間：2026年3月期～2028年3月期（3ヶ年）
基本方針：資本コストや株価を意識した経営により企業価値を高める。

目標：2028年3月期

(現状)

ROE・ROIC：未達成
PBR：未達成

初年度（2026年3月期）見込

連結売上高：69億

連結売上高：150億
ROE/ROIC：8%
PBR：1倍以上

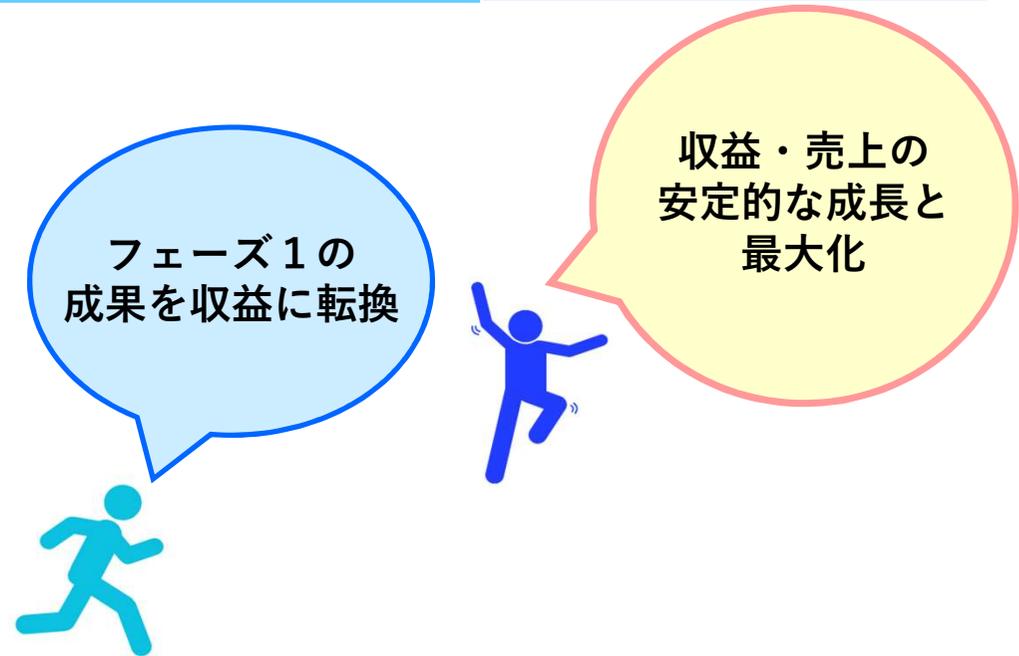
- ・収益力：特定顧客依存が高い
- ・資本効率：株主還元の実効性、資産効率、業務インフラに改善余地
- ・IR：企業価値の伝達力が不十分

中期経営計画・初年度位置づけ_2



期間	(2026年3月期)	(2027年3月期)	(2028年3月期)
フェーズ	1.基盤構築	2.回復・拡大	3.定着・最大化
位置づけ	成長の基盤を構築する	収益・売上拡大への転換	成長の定着と成果の最大化

収益力向上	<ul style="list-style-type: none"> ・人的資本投資による提案力・営業力の強化 ・台湾拠点開設による海外展開の強化 ・提案型商材、取引先連携拡充による営業の質向上、営業領域拡大
資本効率向上	<ul style="list-style-type: none"> ・株主還元の実効性向上 ・資産効率、業務インフラの改善
IR拡充	<ul style="list-style-type: none"> ・IR・Marcomチーム主導による積極的な情報発信 ・発信チャネルの拡充と認知向上





栄電子KPI: 企業活動の成果を「人的資本」と「物的資本」という経営資源との関係性の中で捉え、より効率的かつ持続可能な企業成長を目指す。

分類	実績(成果)に関する指標	人的資本に関する指標	物的資本に関する指標
	当社の事業活動の成果を示すもの	従業員一人ひとりの能力開発と企業への貢献を促すための投資と状況を示す	設備や資産の効率的な活用によって環境負荷を低減することを示す
指標	<ul style="list-style-type: none"> ①受注高／人 ②売上高／人 ③営業利益額／人 ④重点顧客受注高 ⑤重点商品受注高 	<ul style="list-style-type: none"> ⑥人事評価制度改定 ⑦健康経営認証取得 ⑧採用実績人数 ⑨社員研修費／人 ⑩研修実施時間／人 ⑪社員定着率 	<ul style="list-style-type: none"> ⑫システム改修 ⑬不具合発生数 ⑭システム稼働率 ⑮在庫回転率 ⑯不動在庫金額 ⑰システム投資額 ⑱遊休不動産額

栄電子KPI



(百万円)

項目	2025年3月期		2026年3月期		
	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q
従業員数	92	93	93	92	91
1人当たり売上高	53	69	19	36	57
1人当たり受注高	44	61	16	35	59
1人当たり営業利益	0.7	0.7	0.2	0.3	0.8

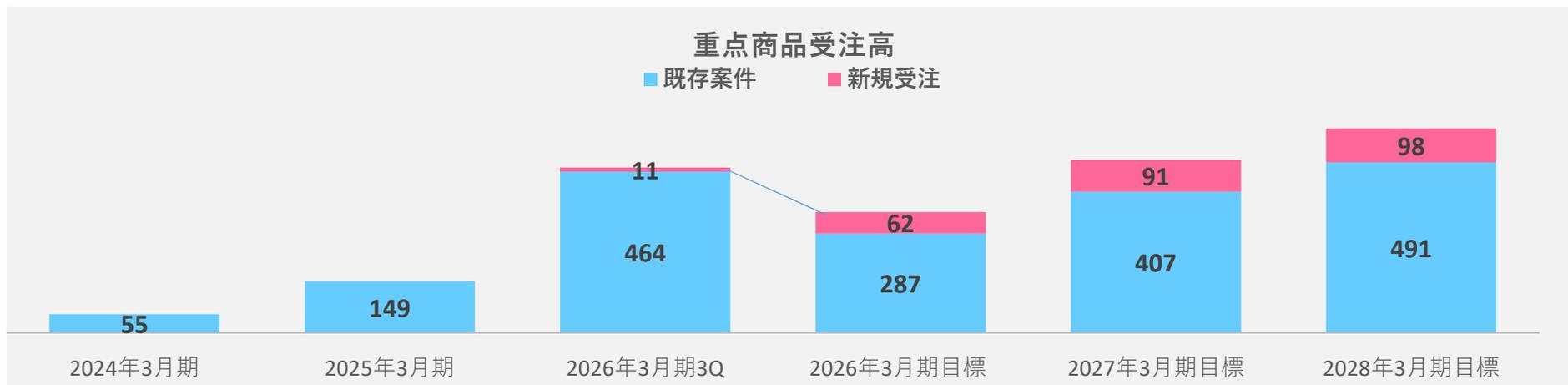
* 従業員数には、パート・アルバイトを含む。

* 金額は、各四半期の累計額。

- ・ 当第3四半期の営業利益率は1.48%と前年同四半期1.40%から0.08ポイント増加。
- ・ 経費増加要因は、主として人材確保の推進、社員研修の拡充、外部物流の活用、展示会・WEB広告等販促活動の強化による。
- ・ 調達コストの削減、業務プロセスの見直し・効率化に取り組み、営業利益率5%以上を目指す。



(百万円)

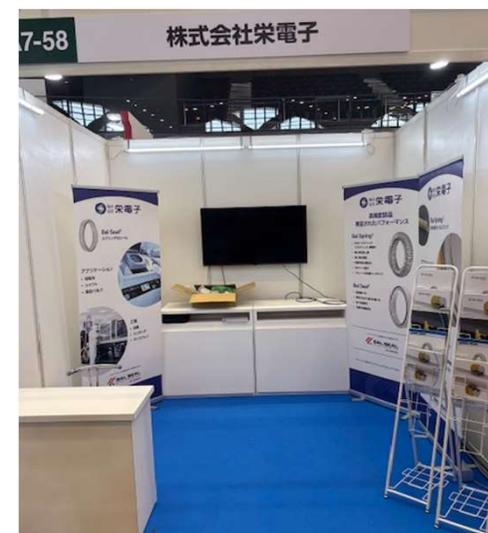


・ 特定商品群の事業貢献度を測っている。現在、2024年3月期に新規代理店となった海外メーカー製品を対象とし、受注拡大及び新規案件獲得に取り組んでいる。

・ 2026年3月期計画に対し、当第3四半期累計実績は既存案件で161.7%の進捗、新規案件は17.7%の進捗。

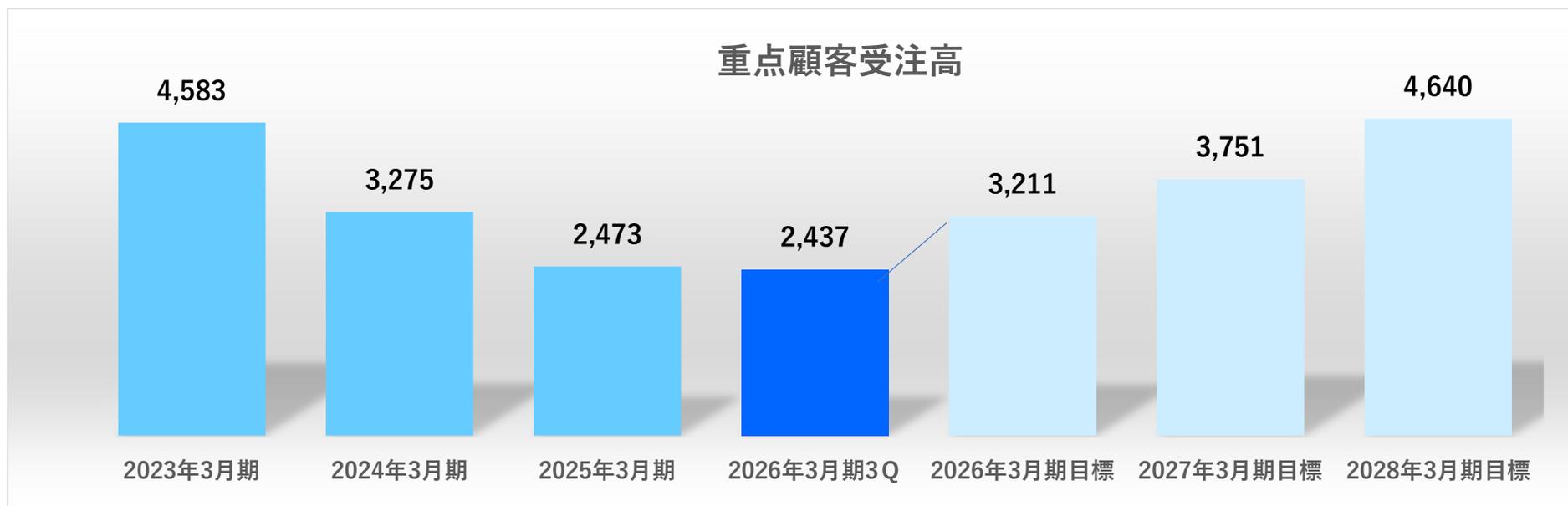
トピック

7月開催の「ものづくりワールド東京2025」に引き続き、10月に開催された「ものづくりワールド大阪2025」と九州半導体産業展にも出展いたしました。





(百万円)



- ・ 重点商品の拡販及び新規案件獲得に向けた注力先、並びに各種重点施策の対象先について受注実績及び中期目標に対する進捗を可視化。
- ・ 2026年3月期計画に対し、当第3四半期累計実績は75.9%の進捗。



将来の見通しに関する記述等についてのご注意

本資料は、当社の経営方針・経営情報等をよりよくご理解いただくことを目的として作成したものであり、いかなる投資勧誘をも目的としたものではありません。

本資料に記載されている当社及び当社グループについての予測、期待、計画等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提条件に基づいており、様々な要因によって実際に生じる結果と大きく異なる可能性があります。